

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 2月17日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3671300436
法人名	社会福祉法人 健祥会
事業所名	グループホーム 笑顔毎日
所在地	徳島県阿南市羽ノ浦町中庄大知淵10 (電話) 0884-44-1801
評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成20年 2月 6日

## 【情報提供票より】(平成19年12月28日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 8月 1日
ユニット数	3 ユニット
職員数	20 人
利用定員数計	27 人
	常勤 18人, 非常勤 2人, 常勤換算 コスモス7人, すいせん 6人 ひまわり6.2人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て 造り
	1 階建ての 1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費6,000円,その他実費
敷 金	有( 円)		無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 0 円
	または1日当たり 900円		

### (4) 利用者の概要(12月28日現在)

利用者人数	25 名	男性	8 名	女性	17 名
要介護1	2 名	要介護2	8 名		
要介護3	9 名	要介護4	5 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低	74 歳	最高	103 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	・生野外科胃腸科 ・富塚歯科医院
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、地元の人たちが作った休耕田利用の花畑(コスモス)等が広がる、のどかな環境の中にある。建物は廊下に天窗があり、採光や空気清浄等に配慮され、明るくて温かいつくりになっている。利用者は、廊下にある椅子や食堂に集い、職員や気の合った同士が会話を楽しんでいる。また、毎朝の朝礼では、理念の実践や利用者の尊厳の大切さが伝えられ、プライバシー確保の徹底が図られている。近隣にある他法人のグループホームと常に連携が図られ、情報交換や合同で行事を行うなど、利用者、職員間の交流が積極的に行われている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>食事を楽しむことの支援について、利用者と職員が同じ内容の食事をとることへの取り組みが改善課題となっており、法人運営会議において検討されているが、母体の方針で職員はお弁当持参となっているため、現在のところ改善されていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は、評価の意義を全職員に伝え、職員は日頃のサービスについて話し合いながら、全職員で自己評価に取り組み、作成されている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>平成19年度は4回開催され、運営状況や外部評価報告、イベントへの協力依頼、地域との交流活動への取り組み、防災対策等について話し合いが行われている。ホームの災害時避難訓練に運営推進会議委員の参加を得、訓練状況を知ってもらうなどの取り組みが行われ、地域連携活動展開への足がかりとしている。運営推進会議の参加者は、地域包括支援センター職員、老人会会長、民生委員、家族会代表、近隣グループホーム管理者、近隣住民、利用者、家族等となっている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族会等で意見、要望などの呼びかけを行うとともに、玄関に意見箱を設置して意見等が出しやすい環境がつけられている。また、利用者の健康など近況報告は家族の来訪時のほか、毎月、行事予定と一緒に文書で報告し、2ヶ月毎の『笑顔毎日だより』により暮らしぶりなど写真入りで報告している。家族の意見は職員のミーティング時に話し合い、運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の敬老会や秋祭り、文化祭やコスモス祭りなどのイベントに参加するほか、ホームの敬老会や夏祭りに地域の方々を招待したり、近隣グループホームの入居者との芋堀り、運動会の実施、保育園児や中学生、ボランティアの来訪など地域の人々との積極的な交流が行われている。防災訓練には市消防署や運営推進会議委員の協力を得て、地域との関係を築き取り組みが行われている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の目指す独自の理念をつくりあげているが、開設当時のものであるため地域密着型サービスとしての見直しがされていない。	○	制度改正により地域密着型サービスが創設され、地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていく、地域密着型サービスとしての理念づくりの取り組みが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、毎朝の朝礼で理念を唱和し、理念に基づいたケアの実践に取り組んでいるが、地域密着型サービスとしての理念の作成がされておらず共有ができていない。	○	毎日の支援としては地域を視野に入れ、徐々に地域へ溶け込んでいこうという取り組みが見られるが、まだ理念が見直されていないので、早急に見直しに取り組まれ、地域密着型サービスとしての理念を共有することが望まれる。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の敬老会や秋祭り、文化祭やコスモス祭りなどのイベント等への参加や事業所の敬老会、夏祭りに地域の方々を招待して交流を図るほか、保育園児や中学生、ボランティアの来訪など地域の人々との交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、評価の意義を全職員に伝え、職員は日頃のサービスの反省や改善点等話し合い、自己評価に取り組んでいる。外部評価結果は、運営推進会議で報告するとともに、職員のミーティング時及び法人の運営会議において話し合いが行われている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月毎に開催し、運営状況、外部評価結果報告、防災対策等について話し合いが行われ、地元敬老会の招待や運営推進会議委員の避難訓練参加などによる実状理解などを得て、地域交流展開への取り組みに活かしている。参加者は、地域包括支援センター職員、老人会会長、民生委員、家族会代表、近隣グループホーム管理者、近隣住民、利用者、家族等となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター、居宅介護支援事業所等と常に情報交換を行うとともに、市担当者とは、報告書類の提出や情報交換、相談など、訪問の機会をつくり連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の面会時や電話で近況報告をするほか、毎月、利用者の健康状態、行事予定などを写真や文書で報告している。健康状態に異常があった場合はその都度電話連絡を行っている。また、2ヶ月毎発行の『笑顔毎日だより』により、ホームでの暮らしぶりが写真入で報告されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時の声かけや家族会での協議、意見箱設置等により、家族の意見、要望を聴く機会を設けている。家族から出された意見、要望により毎月の行事予定表を送付するなど運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は、ユニット間で行うことがあるが、利用者や家族が安心できるよう固定化し、必要最小限に抑える努力をしている。交代時には、ケアの継続に支障がないよう十分に引継ぎを行い、利用者や家族に挨拶やホームだよりで家族に報告をするなど、利用者へのダメージを防ぐ配慮が行われている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内年間研修計画を立て、できるだけ多くの職員が参加できるようにしているとともに、外部研修にも習熟の段階に応じた参加ができるよう配慮がされている。研修内容は、職員会議で報告し、報告書は回覧され、全職員が共有できる機会をつくっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国認知症グループホーム協会や県協会、全国老人福祉施設協議会に加入し、勉強会等に参加するとともに、近隣グループホームとの相互訪問や利用者合同の芋掘り、運動会の実施などを通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族にホームを見学してもらい、職員、利用者とお茶を飲んだり一緒に時を過ごすなどして雰囲気を知ってもらい、本人が納得のうえ利用できるよう家族と相談しながら徐々に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者一人ひとりの意思や考えを理解、尊重するように心がけ、調理や習わし、ことわざ等人生の先輩として日々学んだり、互いに「ありがとう」を言ったり言われたりしながら共に過ごし、支えあう関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で常に利用者の話に耳を傾け、目を合わせるなど、コミュニケーションを取りながら思いや希望の把握に努め、家族と相談しながら本人本位に進めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月サービス担当者会議を開催し、本人や家族の要望等を取り入れて、利用者一人ひとりがその人らしく暮らし続けるための支援が盛り込まれて介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、定期的見直しと、利用者の状態変化や本人家族の意向、要望等に応じて随時見直しが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし、利用者の病院受診支援、電話相談、夜間の対応のほか重度化や終末期に向けた支援への取り組みなど、利用者、家族の要望に応じて満足が得られるよう柔軟な支援を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医としている。通院介助を行ったり、訪問診療を依頼することもあり、かかりつけ医に相談や報告を密にして連携を図りながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化や終末期のあり方についてうかがい、利用途中に本人、家族の気持ちが変わればその都度相談してもらうよう伝えている。また、重度化や終末期に向けた方針が示され、本人、家族、かかりつけ医、協力医院と話し合いが行われており、朝礼で随時話し合い、職員も方針を共有できている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	契約書及び重要事項説明書に明記し、利用者、家族に説明がされているとともに、尊厳を傷つけない言葉かけ、プライバシーの確保について、朝礼で全職員に伝え、徹底が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者の言葉に耳を傾け、目線を合わせながら、意向を把握することを大切にして、一人ひとりのペースにあわせ、ゆったりと支援されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や盛り付け、テーブル準備など、利用者と一緒にを行い、食事は同じ食卓で利用者の支援をしながら、ゆっくりと和やかに会話をしながら行われている。しかし、職員は弁当を持参され、利用者と同じ内容の食事はとっていない。	○	法人の方針等もあるが、利用者と同じものを食して、ともに味わいながら食事を楽しむ取り組みを期待する。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員は、利用者一人ひとりの入浴習慣や好みを把握している。入浴時に意思の確認や希望を聴く声かけをするなどし、夜間入浴やゆず湯などを取り入れ、入浴が楽しめるよう支援をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	俳句、習字などの趣味活動や調理、日めくり、ごみ出し、洗濯物たたみなど、得意分野やできることで力が発揮できるように支援が行われている。職員は、一緒に喜んだり感謝の気持ちを伝え、喜びや楽しみなどを実感できるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日はホーム周辺のコスモス畑等への散歩のほか、外食やショッピング、ドライブ、馴染みの理美容院や喫茶店に出かけるなど、戸外に出る機会をつくっている。俳句、カラオケなど趣味の会への外出支援も行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアを理解し、職員の日配りを徹底して、利用者の外出にはさりげなく一緒に出かける等配慮をしている。屋内からは自由にロックを外して出入りができるようになっているが、玄関は感染症予防対策(入室時手消毒)等の理由で外来者用に鍵をかけている。	○	外来者からの感染症予防対策に留意しつつも、玄関へ鍵をかけないケアの工夫が期待される。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルを作成し、市消防署の協力を得て消火器の使い方、災害を想定した避難訓練を年2回実施している。運営推進会議委員の参加を得て訓練状況の実際を知ってもらい、災害時に協力が得られるよう地域連携の関係づくりに取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ゆっくり会話を楽しみながら利用者のペースに合わせて食が進むよう支援がされている。摂取量の少ない利用者には嗜好品や代替品で補い、栄養バランス等については併設施設の栄養士から助言を得ている。食事、水分摂取量は記録し、全職員で把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先は季節の鉢花が周囲を和ませている。廊下は天井が高く明るい。食堂を中心に浴室、トイレ等がわかりやすく配置され、居間は日当たりがよく、眺めがよい。畳コーナーにはホームこたつが置かれるなど、利用者の憩いの場となっている。絵画や生花、利用者の作品、日めくり等が要所に飾られ、居心地よく過ごせるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、畳等利用者の好みの部屋に、観葉植物やテレビ、机、家族の写真、鏡など使い慣れた家具や装飾品が持ち込まれ、居心地良く過ごせる居室づくりがされている。		